

令和4年度参画と協働 施策実施状況報告書 一覧

No.	所属名称	事業名	資料1
1	秘書人事課	特別職等報酬審議会	
2	秘書人事課	広陵町「いい町づくり」活動貢献者表彰・元気な広陵表彰	
3	総合政策課	広陵町コミュニティバス運行委託業務	
4	総合政策課	公共施設長寿命化計画継続支援展開業務委託	
5	総合政策課	総合計画の検証及び行政評価支援事業業務	
6	総合政策課	総合計画審議会	
7	総合政策課	公共交通活性化協議会	
8	総合政策課	指定管理者選定委員会	
9	総合政策課	トライアルサウンディング事業	
10	総合政策課	広報「こうりょう」発行事業	
11	安全安心課	生活安全整備事業（防犯カメラ等）	
12	安全安心課	国民保護協議会・防災会議	
13	安全安心課	自主防災組織連絡協議会	
14	安全安心課	防災士ネットワーク	
15	安全安心課	交通安全母の会	
16	安全安心課	交通対策協議会	
17	安全安心課	交通安全施設整備事業（カーブミラー等）	
18	安全安心課	子ども110番の家事業	
19	安全安心課	地域見守りボランティア	
20	税務課	広陵町固定資産評価員	
21	税務課	たばこ税啓発活動委託	
22	社会福祉課	福祉団体活動支援事業委託	
23	社会福祉課	相談支援事業委託料（精神障がい者）	
24	社会福祉課	相談支援事業委託料（障がい児）	
25	社会福祉課	相談支援事業委託料（身体障がい者）	
26	社会福祉課	民生委員・児童委員協議会	
27	社会福祉課	法律相談	
28	社会福祉課	更生保護女性会	
29	社会福祉課	地域福祉計画策定委員会	
30	社会福祉課	社会福祉協議会	
31	介護福祉課	生活支援コーディネーター及び生活支援体制整備協議体運営業務委託	
32	介護福祉課	地域資源情報共有システム情報更新等委託業務	
33	介護福祉課	生活支援体制整備事業	
34	介護福祉課	老人クラブ連合会	
35	介護福祉課	介護予防活動支援事業	
36	介護福祉課	介護保険事業計画及び高齢者福祉計画策定委員会	
37	けんこう推進課	がん予防推進員活動	
38	けんこう推進課	巡回型健康教室 広陵元気塾	
39	けんこう推進課	食育推進会議	
40	けんこう推進課	健康増進計画策定等委員会	
41	こども課	子ども・子育て会議	
42	こども課	みんなのアフタースクール	
43	認定こども園準備室	西幼稚園・西第二幼稚園閉園事業	
44	子育て総合支援課	なかよし広場・マミつどいの広場	
45	北かぐやこども園	おたのしみ会	
46	住民課	行政相談委員	
47	住民課	人権擁護委員	
48	保険年金課	国民健康保険運営協議会	
49	環境政策課	違反広告物除却活動（コスモス会）	
50	環境政策課	環境保全指導員	
51	環境政策課	空家対策等審議会	
52	リレーセンター業務課	2022エコフェスタ	

令和4年度参画と協働 施策実施状況報告書 一覧

No.	所属名称	事業名	資料1
53	リレーセンター業務課	ごみ減量推進員	
54	リレーセンター業務課	ごみ減量等推進審議会	
55	協働のまちづくり推進課	広陵町自治基本条例展開支援業務委託	
56	協働のまちづくり推進課	男女共同参画審議会	
57	協働のまちづくり推進課	真美一まちづくり協議会	
58	協働のまちづくり推進課	まちづくり連絡会	
59	協働のまちづくり推進課	協働のまちづくり提案事業補助金	
60	協働のまちづくり推進課	区長・自治会長会	
61	協働のまちづくり推進課	自治振興費	
62	協働のまちづくり推進課	男女共同参画出前講座「命の安全教育」	
63	協働のまちづくり推進課	家族（男女）共同の家事・育児を考えるワークショップ	
64	協働のまちづくり推進課	第1回K. S. H. ～みんなでまちづくりを考えよう～こども体験夏まつり	
65	産業総合支援課	広陵町ふるさと納税管理業務委託（一般社団法人広陵町産業総合振興機構）	
66	産業総合支援課	「広陵くつした」ブランディング支援業務における委託金	
67	産業総合支援課	広陵高田ビジネスサポートセンター運営業務委託	
68	産業総合支援課	商工会	
69	産業総合支援課	統計協会	
70	産業総合支援課	広陵かぐや姫まつり（実行委員会）	
71	産業総合支援課	中小企業・小規模企業振興会議	
72	産業総合支援課	広陵金明太鼓	
73	農業振興課	農業委員会	
74	農業振興課	健楽農業	
75	農業振興課	広陵ファミリー農園	
76	都市整備課	令和4年度広陵町パークゴルフ場指定管理料	
77	都市整備課	都市計画審議会	
78	上下水道課	上下水道事業経営審議会	
79	議事課	議会インターネット映像配信	
80	教育総務課	教育委員会	
81	教育総務課	教育振興基本計画等策定委員会	
82	教育総務課	学校給食委員会	
83	学校支援課	広陵放課後塾運営事業	
84	生涯学習文化財課	広陵町有線放送設備設置事業に係る補助金（中区）	
85	生涯学習文化財課	青少年健全育成協議会	
86	生涯学習文化財課	婦人会	
87	生涯学習文化財課	P T A 連絡協議会	
88	生涯学習文化財課	子ども会連合会	
89	生涯学習文化財課	文化協会	
90	生涯学習文化財課	文化財ガイド	
91	生涯学習文化財課	古文化会	
92	生涯学習文化財課	成人式事業（成人式実行委員会）	
93	生涯学習文化財課	大垣内立山補助金	
94	生涯学習文化財課	社会教育委員会議	
95	生涯学習文化財課	史跡等管理委託（与楽寺収蔵庫管理）	
96	生涯学習文化財課	史跡等管理委託（崇山古墳等草刈・清掃事業）	
97	スポーツ振興課	令和4年度 広陵町スポーツ協会補助金	
98	中央公民館	中央公民館育成クラブ活動事業	
99	図書館	おはなし会	
100	図書館	図書館施設内の会場提供	
101	図書館	図書館開館25周年記念事業（図書館マルシェ）	
102	東小学校附属幼稚園	おたのしみ会	
103	真美ヶ丘第一小学校附属幼稚園	学校運営協議会	
104	真美ヶ丘第二小学校附属幼稚園	おたのしみ会など	

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業 名称	特別職等報酬審議会	所管部 署	課名 秘書人事課
----	---	------------	-----------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	7-2	健全な財政運営の推進		2	歳出の削減と合理化の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵町特別職報酬等審議会委員
協働実施手法	3-1 審議会、策定委員会等

具 体 的 な 対 象	学識経験者、町内の公共的団体等の代表者等で構成する広陵町特別職報酬等審議会委員	⑨ 母 数	5人
----------------------------	-----------------------------------------	-------------	----

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	専門的及び客観的知見を有した委員の意見を、本町における特別職の報酬等のあるべき額に反映することを目的としている。
--------------------------------------	----------------------------------------------------------

事 業 内 容	議員報酬の額並びに町長、副町長及び教育長の給料の額その他特別職の報酬等に関する事項について、調査審議し、町長に対し意見具申するとともに、町長から諮問があつたときは、当該諮問事項について答申するもの。
------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		0		118		122	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	5	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	
合 計							26	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	各委員の専門的な知見を学ぶことができ、それを答申に反映することができた。	各委員の専門的な知見を学ぶことができた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	専門的な知見を有しているも、客観的データの捉え方はさまざまであり、意見集約する上での折衷案を提示するのが課題である。	意見集約する上で、各委員で客観的データの捉え方の相違があった。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	2	事務事業 名称	広陵町「いい町づくり」活動貢献者表彰・ 元気な広陵表彰	所管部 署	課名 秘書人事課
----	---	------------	--------------------------------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	5-2	地域コミュニティの育成		1	コミュニティ活動の活性化

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	町民
協働実施手法	2-4 普及・啓発

具 体 的 な 対 象	町の発展に寄与または広く町民の模範となるような活動があった町民。 スポーツ、文化・芸術の各分野で評価を受けて賞せられた個人・団体	⑨ 母 数	25
----------------------------	---------------------------------------------------------------------	-------------	----

目 的 ・ 期 待	いい町づくり→町の発展に寄与または広く町民の模範となるような活動があった町民の功績を表彰。 令和4年度表彰者：9名 令和3年度表彰者：0名 元気な広陵→スポーツ、文化・芸術の各分野で評価を受けて賞せられた個人・団体を表彰。 令和4年度表彰者：18名 令和3年度表彰者：11名
-----------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事 業 内 容	いい町づくり→区長・自治会長会にて対象となる人を推薦してもらい、役場にて表彰者を決定する。 元気な広陵→町内の小・中学校、公民館にて対象となる人を推薦してもらい、役場にて表彰者を決定する。
------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		60		21		60		60	維持

今後の方針	(選択)	拡大・縮小・廃止の理由
-------	------	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4
		合 計					27	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

来年度から

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	R2年、R3年と対象となる大会やコンクール、様々な活動が縮小傾向にあったが、R4年は再開され、それに伴い表彰対象者も増えたことから、活躍や功績に対して表彰し、認知、啓発することは期待されていると考えられる。	記入不要
協働することで感じた課題や今後の方向性	元気な広陵については、学校によって推薦者の選定方法が違っていると感じたため、推薦方法について学校へ詳しく周知する必要があると感じた。	記入不要

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業名称	広陵町コミュニティバス運行委託業務	所管部署	課名 総合政策課
----	---	--------	-------------------	------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
2-4	道路・公共交通の充実		2	持続可能な公共交通ネットワークの構築

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	株式会社奈良交通・(株式会社愛和交通:R5から)
協働実施手法	1-1 委託

具体的な対象	免許返納者や高齢者を初めとした、自家用車以外の交通手段が必要な方 町内外への移動をもっと自由に行いたい方	⑨対象者の母数	全町民
--------	---------------------------------------------------------	---------	-----

**目的・期待成果**

【目的】  
 ・自身で自由に移動できない方の公共交通での移動の実現  
 ・公共交通ネットワークの構築により円滑な移動の実現  
 令和4年度は、令和3年度に策定した「広陵町地域公共交通計画」(以下「交通計画」という。)に定めた交通ネットワーク及び実施事業を具現化するため、住民ワークショップ、既存交通事業者へのヒアリング及び「広陵町地域公共交通運行再編に伴うMaaSを活用した新モビリティ導入検討に係るサウンディング型市場調査」を実施し、令和5年度以降の公共交通の運行について検討した。  
 その結果、町内及び近接市町の公共・商業・医療施設並びに近鉄大和高田駅への移動を定時定路線運行(中央幹線)及び区域運行(自家用有償運送)により確保することが決定した。  
 令和5年7月からの再編に向け、令和5年度当初から円滑な準備を行うため、運行业者及び予約システムを含むMaaS構築事業の選定プロポーザルを実施し、事業者を決定した。  
 運行再編については、「広陵町地域公共交通利便増進計画」に基づき実施することとしているが、近畿運輸局との調整に時間を要しており、成果指標などが十分に検討できていない状況である。  
 また、再編実施当初は無償運行期間とするが、その期間で集約した意見を10月からの有償運行の内容反映させる予定であるが、意見の集約方法、反映方法等の検討が必要である。

**事業内容**

広陵町地域公共交通計画に基づく公共交通施策の実施  
 昨年度末に策定した「広陵町地域公共交通計画」に基づき、社会情勢や住民ニーズに応じた公共交通施策を実施するため、以下3点の事業を行う。  
 1. 広陵元気号の運行継続(中央幹線)・自家用有償運送(市町村有償運送)への移行  
 町民の日常的な移動手段として、コミュニティバス「広陵元気号」の運行について中央幹線は一部路線を再編し運行を継続する。  
 支線部分については、更なる利便性向上をめざし、予約型の自家用有償運送(市町村有償運送)へ移行する。  
 2. 路線バスの運行継続  
 高田新家線及び高田イオンモール線の利用者が年々減少している中で、関連市町が運行費補助を行い、運行を継続させる。  
 3. 広陵町地域公共交通計画に基づく公共交通施策の実施  
 昨年度末に策定した「広陵町地域公共交通計画」に基づき、社会情勢や住民ニーズに応じた公共交通施策を実施する。

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		51,368		84,416		63,358		76,882	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価	参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価	
	5	4	3	2	1			
とでもできた それなりにできた どちらでもない あまりできなかった 全然できなかった	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。					4	来年度から
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。					4	
	自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。					4	
	相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。					4	
	情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。					4	
	評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。					5	
	相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。					3	
<b>合計</b>								
総合評価	A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	28	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。	
	35～26	25～21	20～16	15～11	10以下	A		

↑自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	本事業の目的である「在来地区の交通弱者及び高齢者の公共交通による移動手段の確保」が達成できており、持続可能な公共交通の提供ができています。	廃止・縮小路線の代替手段として、自治体に運行費を賄ってもらっているため運行が確保できている。
協働することで感じた課題や今後の方向性	リアルタイムの運行状況が把握できず、意見・苦情があった場合の状況確認に時間を要しており、回避するための対策が実施できていない。	自主財源でないため採算に合わない経路等を運行する場合もあり、運行再編には時間を要する。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	2	事務事業名称	公共施設長寿命化計画継続展開支援事業	所管部署	課名 総合政策課
----	---	--------	--------------------	------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
7-3	公共施設マネジメントの推進		1	施設の長寿命化と施設総量の縮減等による更新コストの低減

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	パブリックマネジメント株式会社
協働実施手法	1-1 委託

具体的な対象	「広陵町公共施設再配置(再編)計画」の中で、施設を長寿命化するとした31施設を対象としており、その中で特に、現状多額の財源が使われているものを中心に、「先導的プロジェクト」と位置づけ、複合化・多機能化を踏まえた再配置の検討を行うもの。 長寿命化対象施設「社会教育系施設1、スポーツ・レクリエーション施設6、学校教育施設8、子育て支援施設8、保健福祉施設3、行政系施設1、供給処理施設1、その他施設2、町民文化施設1」	⑨対象者の母数	全町民
--------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------	-----

目的・期待成果	<p>【目的】 従前、老朽化した公共施設については、事後保全による修繕を主として実施してきたが、施設の安全性確保や維持管理における品質のばらつきがあり、適正な維持管理ができていない状況であった。本事業では、人口減少や少子高齢化を見据えた財源予測を行い、各公共施設の劣化状況を事前に把握した上で、予防保全型の施設管理を行うことで適正な維持管理及び修繕を行うものである。また、劣化状況がD判定と特に悪い施設を優先して長寿命化改修を行い、併せて、「先導的プロジェクト」に位置づけた施設については、公民連携(PPP)手法を用いた「縮充」プランを検討することとしている。 ゴール: 計画的な維持補修及び施設の長寿命化改修を行う。併せて、多様化する住民ニーズに沿った、施設の再編、再配置の検討を行う。</p> <p>【成果】 既存の公共施設のあり方や維持管理を踏襲するのではなく、限られた資源(財源・人材)の中で、効率的に運営することを目的として公共施設の配置を見直す考え方やスキルが若手職員に備わった。 また、全国的なトレンドに反して、本町の一部では子どもが増加傾向にあるが、将来直面するであろう少子化に対応するため、学校施設の再編に伴う庁内会議が設立された。</p> <p>【課題】 公共施設の再編やあり方を検討するべき案件は、本事業から派生した案件を含め多数あることから、継続して個別の検討を進める必要がある。</p>
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事業内容	<p>令和4年度については、庁内若手職員によるワーキンググループを開催し、次のことを検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内公共施設の中でも老朽化が進んでいる施設の再編検討</li> <li>・使い方が類似している施設の集約化や複合化の検討</li> <li>・少子高齢化が進む現状を踏まえ、教育施設の今後のあり方を検討</li> </ul>
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円				2,838		1,980			廃止

今後の方針 | 廃止 | 拡大・縮小・廃止の理由 | 課題のある公共施設については個別に対応するため。

令和 4 年度 事業評価	参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	4	来年度から
					対等性	2	
					自主・自立	3	
					相互理解	3	
					情報公開・透明性	3	
					評価・見直し	4	
					相互変革	2	
					合計	21	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価	A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	委託契約関係にあるため当然かもしれないが、長寿命化計画を踏まえ、若手職員が今後の公共施設のあり方を再考するいい機会となった。	広陵町は全国的な例とは異なり、一部の地域では子育て世帯が増加しており、新規施設の建設が当然のように実施されている。しかし、近い将来、少子化が訪れることから、公共施設再編についての認識を共有できた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	今後の方向性について、今後は本事業ではなく、個別具体的に個々の事象に対応していく予定	

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	6	専務事業 名称	総合計画の検証及び行政評価支援事業 業務	所管部 署	課名 総合政策課					
<b>(ア) 総合計画上の位置づけ</b>										
施策 番号	7-1	施策名 効果的・効率的な行政運営の推進		展開 方向	番号 1					
<b>(イ) 実施内容・体制</b>										
協働する相手		株式会社 日本政策総研								
協働実施手法		1-1 委託								
具 体 的 な 対 象	広陵町役場に勤める全正規職員			⑨ 対 象 者 の 母 数	約250人					
目 的 ・ 期 待 成 果	<p>【目的】 第5次広陵町総合計画の始動1年目の評価においても第5次総合計画策定時と同様に、総合計画策定に関する研修や政策マネジメントシートを活用した職員の政策形成能力の向上を図ったが、依然として、所管課間でのレベルに差があり、自分自身が実施している事業の本質や指標に対する理解浸透が不十分であり、自己評価の手直しが多いのが現状である。 ・前述した現状を打破するため、より実効性のある総合計画を実走させる目的で、行政評価制度を活用した人事・財政・企画立案の制度構築と仕組み化を行う。 ・庁内各課における施策立案・検証等のレベルの均等化を目的に、行政評価等に係る所管課が作成したシートの添削や所管課ヒアリング、職員研修を行い、事業の実効性を上げていく。 最終的なゴール(期待成果)として、実効性のある総合計画及び行政評価制度の構築により、より効果的にPDCA管理を自走できている課が大半を占め、有効な事業が展開されている状態をめざす。</p> <p>【成果】 令和4年度については、試行導入として実施したため、今度も引き続き実施することにより正確な成果を得ることになるが、現時点では、以下のような事柄が挙げられる。 ・人件費を含むフルコストにより事業を勘案する機会となったこと。 ・事業を遂行する上で、成果指標を明確に考える機会となったこと。</p> <p>【課題】 マクロ的にEBPMに基づく事業実施が求められているが、今後も本事業に係る事業マネジメントシートを用いることで、職員ひとり一人が自分が実施している事業の経緯や目的を正確に把握するスキルを身につけることが課題であり、必要不可欠なことと考える。 また、スクラップ&amp;ビルドの考えに基づき、事業の優先順位を自ら判断し、効果的な事業を優先的に実施することで限りある資源の有効活用を実施できるスキルも必要だと考えるため、各課での事業棚卸しと見直しができるスキルを習得していくことも今後、課題となる。</p>									
事 業 内 容	<p>・行政評価制度を活用した総合計画検証の制度検討 ・評価実施のための所管課ヒアリング(庁内各課における施策立案・検証等のレベルの均等化を目的) ・検証委員会運営 (R3年度の取組) 従来どおりの計画立案ではなく、職員一人一人が各課における目標達成のために政策立案を行う方法により、第5次広陵町総合計画を策定。 (R4年度の取組) 職員への定着を図るため、行政評価制度を試行的に実施。R3年度事業のうち、各課から複数事業を選定し、行政評価に係るシートを作成し、疑問点を解消していただけるよう対面ヒアリングを実施した。 (R6年度以降の取組) 行政評価に基づき事務事業の見直しを行い、限られた資源(お金・人)の最適配分が行えるようにする。</p>									
<b>(ウ) 事業費</b>										
事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円				3,014		2,998		3,000	縮小
今後の方針	縮小	拡大・縮小・廃止の理由 今後、行政評価が定着すればサポートの必要がなくなるため								

令和 4 年度 事業評価	参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価			
	5	4	3	2	1			来 年 度 か ら		
	と も で き な か っ た	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。						5	
		対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。						4	
		自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。						2	
		相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。						4	
		情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。						2	
		評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。						3	
相互変革		協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。				2				
<b>合 計</b>						22	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。			
総合評価	A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B				
↑自動計算										

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	評価に対する考え方は抽象的なものがあつたものの、それを定量的かつ具体的に測定するシートの作成ができたことが効果と考えている。	これから限りある資源を有効活用する手法を考えていかなければならない時代に必ずなることを共有できてよかったと感じていますが、更に理解を深める必要はあると思います。
協働することで感じた課題や今後の方向性	今後の方向性として、行政評価が定着し職員が事業を実施する真意を理解すれば縮小したい。	今後は担う職員に対して実施する必要があることから、ターゲットは明確にして、評価のあり方や真意をしっかりと伝える必要があると感じています。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	3	事務事業 名称	総合計画審議会	所管部 署	課名 総合政策課
----	---	------------	---------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	7-1	効果的・効率的な行政運営の推進		1	効果的・効率的な行政運営の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	総合計画審議会委員
協働実施手法	3-1 審議会、策定委員会等

具体的な対象	学識経験者、町の関係団体の代表者、公募委員などからなる広陵町総合計画審議会委員	⑨ 対象者の 母数	12人
--------	-----------------------------------------	-----------------	-----

目的・期待	広陵町の総合計画の策定及び実行に関して審議し、各課で実施する事業について総合計画に定める目標達成に向けてその進捗と改善を図る。
-------	-----------------------------------------------------------------

事業内容	年2回程度、審議会を実施し、各施策及び基本目標ごとの達成度合いを審議する。
------	---------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円						48			廃止

今後の方針	廃止	拡大・縮小・廃止の理由	新たな会議体発足により、本審議会はなくなるため
-------	----	-------------	-------------------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価	
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	1	
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3	
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3	
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4	
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4	
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	2	
		<b>合 計</b>							
<b>総合評価</b>		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下			

来年度から

21 B  
左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。  
※協働する相手の評価については、来年度から実施します。

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	専門的知見及び町内で活動や生活されている方の意見を聞くことができた。	町の取り組みを深く知ることができた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	今後は、更なる具体的改善を求めため、本審議会は廃止とする。	廃止のため、なし。



令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	6	事務事業名称	広陵町地域公共交通活性化協議会	所管部署	課名 総合政策課
----	---	--------	-----------------	------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
2-4	道路・公共交通の充実		2	持続可能な公共交通ネットワークの構築

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵町地域公共交通活性化協議会委員
協働実施手法	2-3 実行委員会

具体的な対象	公共交通運行事業者、町の関係団体の代表者、有識者(県・国)などからなる広陵町地域公共交通活性化協議会委員	⑨対象者の母数	18名
--------	------------------------------------------------------	---------	-----

目的・期待成果	<p>【目的】</p> <p>地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の規定に基づき、地域公共交通計画の実施及び更新に係る協議及び連絡調整を行うため設置している。</p> <p>当協議会では、道路運送法の規定に基づき、地域内における住民の生活に必要な輸送の確保その他公共交通の利便の増進を図り、地域の実情即した輸送サービスの実現に必要な事項を協議している。</p>
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事業内容	<p>広陵町地域公共交通計画に基づく公共交通施策の協議</p> <p>昨年度末に策定した「広陵町地域公共交通計画」に基づき、社会情勢や住民ニーズに応じた公共交通施策を実施するため、以下2点の事業について協議を行った。</p> <p>1. 広陵元気号の運行継続(中央幹線)・自家用有償運送(市町村有償運送)への移行</p> <p>町民の日常的な移動手段として、コミュニティバス「広陵元気号」の運行について中央幹線は一部路線を再編し運行を継続する。</p> <p>支線部分については、更なる利便性向上をめざし、予約型の自家用有償運送(市町村有償運送)へ移行する。</p> <p>2. 広陵町地域公共交通計画に基づく公共交通施策の実施</p> <p>昨年度末に策定した「広陵町地域公共交通計画」に基づき、社会情勢や住民ニーズに応じた公共交通施策を実施するための住民ワークショップの実施及び運行事業者ヒアリングなどの実施について協議を行った。</p>
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		2,967		7,058		4,075		200	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1				
とでもできた	それなりにできた	あまりできなかった	全然できなかった	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来年度から	
				対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4		
				自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4		
				相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4		
				情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4		
				評価・見直し	事業の目標設定をするともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4		
				相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3		
合計						27	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。	
総合評価	A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	A		
	35～26	25～21	20～16	15～11	10以下			

↑自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	交通事業者及び関係機関による協議体であるため、公共交通の運行について円滑な協議が実施できている。	代表者(会長)は町長
協働することで感じた課題や今後の方向性	会議では、各機関(会社)を代表した意見を述べることとなるが、自社の考えを述べられると円滑な会議進行に影響の出る場面も生じている。	代表者(会長)は町長

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	4	事務事業名称	指定管理者選定委員会	所管部署	課名 総合政策課
----	---	--------	------------	------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
	7-1	効果的・効率的な行政運営の推進		1	効果的・効率的な行政運営の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	指定管理者選定委員会委員
協働実施手法	3-1 審議会、策定委員会等

具体的な対象	学識経験者、庁内関係職員からなる指定管理者選定委員会	⑨対象者の母数	外部委員3人
--------	----------------------------	---------	--------

目的・期待	指定管理業務を発注している施設について、受託事業者から当該年度の実施状況をヒアリングし、次年度以降の運営の改善を図る。
-------	-------------------------------------------------------------

事業内容	年1回、当該年度の指定管理業務の実施状況のヒアリング 指定管理業務の契約期間満了後、次期事業者を選定するに際し、必要に応じて随時、委員会を開催
------	----------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		18		18		36		36	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	1
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	2
		合 計						
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	21	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
							B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	専門的知見及び町内で活動や生活されている方の意見を聞くことができた。	町の取り組みを深く知ることができた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	今後も継続して実施する。	民間事業者に委託することでも市場性がない施設については、根本的な施設の運営を考え直す必要がある。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	5	事務事業名称	トライアルサウンディング事業	所管部署	課名 総合政策課
----	---	--------	----------------	------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
7-3	公共施設マネジメントの推進		1	施設の長寿命化と施設総量の縮減等による更新コストの低減

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	トライアルサウンディング受託事業者
協働実施手法	1-1 委託

具体的な対象	トライアルサウンディング受託事業者	⑨対象者の母数	2者
--------	-------------------	---------	----

目的・期待	施設を経営的な視点から捉え、施設経費の削減や最大限の施設活用を図るファシリティマネジメント推進のため。
-------	-----------------------------------------------------

事業内容	交通公園跡地及び図書館カフェスペースにて実施。公共施設を暫定利用していただくことで、当該施設のニーズや市場性を民間事業者が把握し、最終的に貸付について公募する際のリスク軽減に繋がる。行政側としても、行政主体で実施するよりも、民間事業者にノウハウやアイデアを活かして公有財産の幅広いアピールへとつなげることができる。
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円									維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来年度から
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	5	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	5	
		合 計					30	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	行政の決めつけによる公共資産の活用ではなく、市場性に即した利用を行うことができた。	安価で施設を利用することができた。また、暫定利用という形で、提案内容に市場性があるか把握することができた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	民間事業者の提案を活かせる行政の柔軟性が必要だと感じた。	特になし。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	8	事務事業名称	広報「こうりょう」配布事業	所管部署	課名 デジタル推進室
----	---	--------	---------------	------	---------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
7-4	協働・連携によるまちづくりの推進		2	広報・広聴活動の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	区・自治会
協働実施手法	2-7 情報受発信

具体的な対象	町民全体	⑨対象者の母数	約35,000人
--------	------	---------	----------

目的・期待	地域の地理や状況を熟知している区・自治会に広報紙の配布を依頼し、広報紙を各世帯に効率的に届けることで、本町におけるくらしの情報や町政情報、観光やイベントに関する情報などを円滑に発信することを目的としている。
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

事業内容	毎月1日に発行される広報紙の各戸配布
------	--------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		361		361		361		361	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価	参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	4	来年度から
					対等性	3	
					自主・自立	4	
					相互理解	4	
					情報公開・透明性	4	
					評価・見直し	4	
					相互変革	2	
合 計						25	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	

↑自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	区・自治会がその地域の実情に応じた配布をすることで、現在まで特に大きな遅滞なく広報紙を配布することができている。	自治会主体で広報紙の配布を行うことで、高齢者の見守りや地域のふれあいの機会が生まれている。
協働することで感じた課題や今後の方向性	自治会に未加入世帯には配布しない区・自治会があり、全戸配布には至っていない。	自治会の高齢化等の理由から、広報紙の配布が負担となっている自治会もみられる。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業 名称	生活安全整備事業(防犯カメラ等)	所管部 署	課名 安全安心課
----	---	------------	------------------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	4-2	防犯・交通安全の充実		1	防犯体制の強化

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	区・自治会
協働実施手法	4 その他

具 体 的 な 対 象	区・自治会	⑨ 対 象 者 の 母 数	41 団体
----------------------------	-------	---------------------------------	-------

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	【防犯カメラ】犯罪のないまちづくりにを推進することを目的として、区・自治会が自主防犯の補完として防犯カメラの設置事業に対して補助金を交付する。 【防犯灯】夜間に照明のない道路など、治安上・安全上の観点から防犯灯を設置し、以て防犯及び安全に資する事を目的とする。
--------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事 業 内 容	【防犯カメラ】区・自治会が防犯カメラを設置する事業のうち、補助金要綱の補助要件に該当する場合は、補助対象経費の2分の1(限度額20万円)を補助する。 【防犯灯】区・自治会の要望により町が防犯灯を設置し、電気代・修繕等の維持費は、区・自治会が負担する。
------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円			618		952		1,400	維持	

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	5	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	2	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4	
合 計							24	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	【防犯カメラ】地域の希望箇所設置することにより、より細かな事件事故に対する抑止力になる。 【防犯灯】夜の状況を把握する地元の意見にて設置することにより、防犯効果が上がる。	【防犯カメラ】通学路への設置を要する等の、町が設置していた従前のカメラ設置の条件を満たさない場所であっても、設置が可能である。 【防犯灯】防犯効果が上がる。
協働することで感じた課題や今後の方向性	【防犯カメラ】買い替え時期が数年後に迫っているが、その分にも補助を行うか否かの協議が必要。 【防犯灯】要望の増加により設置費が逼迫してきている。	【防犯カメラ】SDカードの買い換えに対しては、補助がなく、維持費がかかるが、補助の制度がない。 【防犯灯】新興住宅地が区・自治会に入らない。防犯灯の経費を負担しない。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	2	事務事業名称	国民保護協議会・防災会議	所管部署	課名 安全安心課
----	---	--------	--------------	------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
4-1	防災・減災体制の強化		1	自助共助(近助)の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	国民保護協議会委員・防災会議委員
協働実施手法	3-1 審議会、策定委員会等

具体的な対象	地域住民	⑨対象者の母数	広陵町人口 (35,000人)
--------	------	---------	--------------------

目的・期待	(1) 広陵町地域防災計画を作成し、及びその実施を推進すること。 (2) 町長の諮問に応じて町の地域に係る防災に関する重要事項を審議すること。 (3) 前号に規定する重要事項に関し、町長に意見を述べること。 (4) 水防法(昭和24年法律第193号)第33条の水防計画その他水防に関し重要な事項を調査審議すること。 (5) 前各号に掲げるもののほか、法律又はこれに基づく政令によりその権限に属する事務
-------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事業内容	国民保護計画、地域防災計画等の防災に関わる重要案件、計画等がある場合に参集し会議を行う。
------	----------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		0		36		72	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由	
-------	----	-------------	--

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1				
ととも それな りでき た	あま りでき なかつ た	どち らでも ない	全然 でき なかつ た	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来 年 度 か ら	
				対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	5		
				自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	5		
				相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	5		
				情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4		
				評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3		
				相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4		
合 計						30	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。	
総合評価	A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	A		
	35～26	25～21	20～16	15～11	10以下			

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	行政の意見のみを一方向的に伝えるのではなく、さまざまな団体の意見を聞くことで、より良い計画作り、また防災力の向上に寄与した。	さまざまな意見を交換することができた。役場の役割、自分達の役割を再確認することができた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	意見交換の方法、意見聴取のタイミング等、委員数も多く全て方が発言したいことを言えているかどうか不明確。	意見の聴取方法等に課題

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	3	事務事業 名称	自主防災組織連絡協議会	所管部 署	課名 安全安心課
----	---	------------	-------------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	4-1	防災・減災体制の強化		1	自助共助(近助)の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	町内にある自主防災組織の代表者
協働実施手法	3-1 審議会、策定委員会等

具体的な対 象	各区・自治会の自主防災組織の会長	⑨ 対象者の 母数	42人
------------	------------------	-----------------	-----

目的・ 成果 期待	「自分たちのまちは自分たちで守ろう」という共助の精神に基づき、自主的に結成された自主防災組織間の連携を図ることにより、地域防災体制の充実強化に寄与することを目的とする。
-----------------	--------------------------------------------------------------------------------------

事業 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災組織間での情報交換</li> <li>・防災に関する知識の普及・啓発</li> <li>・防災士ネットワークとの連携</li> <li>・防災訓練の実施</li> <li>・その他協議会の目的達成のための事業</li> </ul>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		0		0		142	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	5
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	5
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	5
						情報公開 ・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4
		<b>合 計</b>						
<b>総合評価</b>		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価		
		35～26	25～21	20～16	15～11	10以下		

来年度から

左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。  
 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	行政の意見のみを一方向的に伝えるのではなく、様々な団体の意見を聞くことで、より良い防災活動、また防災力の向上に寄与した。	さまざまな意見を交換することができた。役場の役割、自分達の役割を再確認することができた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	意見のとりまとめ方法や防災訓練の在り方を考える必要がある。また、校区単位での話し合いを今後より充実させる必要がある。	区・自治会の意識差をなくすための方策について、総会や合同会議等を行い答えを見つきたい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	4	事務事業 名称	広陵町防災士ネットワーク	所管部 署	課名 安全安心課
----	---	------------	--------------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策 番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
4-1	防災・減災体制の強化		1	自助共助(近助)の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	防災士ネットワーク会員
協働実施手法	2-4 普及・啓発

具 体的 な 対 象	広陵町防災士ネットワーク会員	⑨ 母 数	146人
------------------------	----------------	-------------	------

目 的 ・ 期 待	「自助」「共助」の原則の下、会員相互のネットワークを構築し、防災士としてのスキルアップを図り、広陵町と連携協力し、特定非営利活動法人奈良県 防災士会と連携して、町民の防災意識の啓発及び防災活動の支援を行うことを目的とする。
-----------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事 業 内 容	2か月に1回の役員会議、年1回の総会、年1回の県外研修、年1回程度の技術研修等 自主防災会と協働して防災訓練を実施
------------------	--------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		123		152		700	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	5	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	5	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4	
合 計							29	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	実災害に備えた訓練等において、防災士ネットワーク会員の方々と連携し実施することができた。	町と協働で行うことで、災害時における防災士ネットワークの必要性など再認識できた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	会員全てと情報交換できるような仕組みの構築が必要。	連携した訓練の実施、より積極的な意見交換の場作り、多くの会員の参画等



令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	5	事務事業 名称	広陵町交通安全母の会	所管部 署	課名 安全安心課
----	---	------------	------------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	4-2	防犯・交通安全の充実		2	交通安全対策の強化

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵町交通安全母の会会員
協働実施手法	2-4 普及・啓発

具 体的 な 対 象	各園・各学校から2名選出。並びに選出後も会員として活動いただいている元PTA等から構成されている。	⑨ 母 数	60人
------------------------	---------------------------------------------------	-------------	-----

目 的 ・ 期 待	「交通安全は家庭から」を活動の指針とし、会員の一人一人が家庭内の交通安全の管理者であり、交通安全教育の推進者となるほか、会員個々の交通安全に係る意識の高揚及び知識の習得に努め、地域の交通安全の向上に資する。
-----------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

事 業 内 容	交通安全啓発活動、交通安全教育の普及
------------------	--------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円									維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4	
		合 計					26	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	交通安全に対する啓発活動・交通安全教室について積極的に参加いただいております。会員個々の交通安全意識の向上を感じることができた。	交通安全教育を自身の子ども、地元の子どもに行うことにより、「交通安全教育」が身近なものとして認識することができた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	現状では事業内容や活動の重点・方向性等を町が主導で実施しているが、将来的には会員が主体となり、事業内容等について意思決定していくよう醸成していくことが望ましい。	活動を通じて交通安全教育の大切さを認識できた。今後は、交通安全に対する意識の向上及び知識の深化を図るため、勉強会等の機会を拡充する事を検討する。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	6	事務事業名称	広陵町交通対策協議会	所管部署	課名 安全安心課
----	---	--------	------------	------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
	4-2	防犯・交通安全の充実		2	交通安全対策の強化

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵町交通対策協議会会員
協働実施手法	4 その他

具 体 的 な 対 象	各区・自治会推薦者、関係行政機関、関係団体の代表者等	⑨ 母 数	75人
----------------------------	----------------------------	-------------	-----

目的・期待  
関係行政機関及び関係団体並びに住民が一体となって、交通事故防止と交通事情の改善を図るとともに、順法精神の普及高揚に努め、交通安全の徹底・事故防止に万全を期することを目的とする。  
通学経路上の交差点や横断歩道近傍での立哨活動を通じて、通学・通園中の児童・生徒に対する交通指導、通行車両に対する注意喚起を行い、事故の未然防止を図る。令和4年度の広陵町交通安全推進日は、43日であった。

事業内容  
立哨指導、地域の交通安全危険箇所の点検を行う。交通安全、特に通学路における児童・生徒の交通事故防止を図る。また、総会時に通学路の危険箇所について対策報告・今後の進捗等を報告する。

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		0		0		0	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価	参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	4	来 年 度 か ら
					対等性	3	
					自主・自立	4	
					相互理解	4	
					情報公開・透明性	4	
					評価・見直し	3	
					相互変革	3	
合 計						25	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	地域の方々が地元の児童・生徒に対し立哨活動を行うことにより、お互いに交通ルール遵守について意識してもらえた。	地元の交通等に対する疑問点・問題点を伝えることができる。
協働することで感じた課題や今後の方向性	区・自治会の推薦による会員のなり手がなかなか決まらない所がある。	区・自治会により立哨活動に対する温度差がある。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	7	事務事業名称	交通安全施設整備事業(カーブミラー等)	所管部署	課名 安全安心課
----	---	--------	---------------------	------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
	4-2	防犯・交通安全の充実		2	交通安全対策の強化

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	町民
協働実施手法	2-5 施設・設備

具体的な対象	町民	⑨対象者の母数	約35,000人
--------	----	---------	----------

**目的・期待**  
交通事故を抑止するため、以下の事業を行う。  
交通の危険箇所手前に注意喚起の看板等を敷設することにより、ドライバーに危険箇所を知らせて予防運転を促す。また、交差点や道路の曲がり角等のうち、徐行及び一時停止等を行っても目視確認が難しい箇所にカーブミラーを設置し、ドライバーの目視確認を適切に補助する。

**事業内容**  
道路の危険箇所等に係る住民からの要望を各区・自治会で取りまとめて町に申請する。町は現場確認及び各区・自治会長との協議、法規類の確認等の手続きを経て設置可否を判断し、適正な措置を行う。また、経年や破損等により機能が損なわれたものについて補修、更新等の措置を行う。

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円				1,960		2,022		2,475	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来年度から
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	2	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	
		<b>合 計</b>					24	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
<b>総合評価</b>		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	町民(各区・自治会)からの要望に真摯に取り組む、ほぼ全ての案件について十分な合意形成ができた。	ほぼ全ての案件について要望通りの施工が行われたことにより、道路の危険箇所でのリスクの軽減が図られた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	カーブミラーの設置及び管理に関する明確な基準がないため、誤った運用が行われたり、開発事業により道路環境が変化し、適切に機能しなくなったものが放置されるリスクがある。	より適切な安全確認を期して設置したが、カーブミラーの誤った運用により、かえって目視確認が疎かになってしまった箇所があった。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	8	事務事業名称	「子ども110番の家」事業	所管部署	課名 安全安心課
----	---	--------	---------------	------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
	4-2	防犯・交通安全の充実		1	防犯体制の強化

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	町民
協働実施手法	4 その他

具 体 的 な 対 象	子ども110番事業に賛同いただいている町民	⑨ 母 数 の 対 象 者 の 数	539世帯
----------------------------	-----------------------	-------------------------------------------	-------

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	身に危険を感じて、助けを求める子どもやお年寄りが、駆け込む場所として「子ども110番の家」の旗を掲示している。また、掲示することにより、犯罪の抑止効果となっている。
--------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------

事 業 内 容	子ども110番の家の旗を掲示して、駆け込む場所を提供し、警察等に連絡をする。協力者に対する委託料は発生しないが、旗の費用は町が出している。
------------------	-----------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		0		0		0	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	2	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	2	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	
合 計							21	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	近年、希薄化が顕著な地域コミュニティにおいて、地域ぐるみで子どもを守る行動に参加することで、町民の連帯意識が醸成できる。	子ども達を犯罪等の危機から守るための地域活動に参画することで、共同体の一員として役立っているという自覚や充実感を得られる。
協働することで感じた課題や今後の方向性	高齢化・共働き世帯の増加により、事業の継続が難しい。コンビニや事業所に「子ども110番の事業所」を依頼することを検討する必要がある。	高齢化等で、人材確保が困難な中ででの事業継続を考慮し、今後、コンビニや商店、事業所等の公共性の高い企業等からの協力を得る等協働の範囲拡大について検討してもらいたい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	9	事務事業 名称	地域見守りボランティア事業	所管部 署	課名 安全安心課
----	---	------------	---------------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	4-2	防犯・交通安全の充実		1	防犯体制の強化

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	町民
協働実施手法	4 その他

具 体 的 な 対 象	地域見守りボランティア事業に賛同いただいている町民	⑨ 母 数	47人
----------------------------	---------------------------	-------------	-----

目 的 ・ 期 待	地域住民による児童、高齢者等の見守り体制を確立し、地域の治安の維持・向上に資することを目的とする。 地域住民間の共同意識が低下している中、本事業に参画することで地域内での協働意識を醸成する。 (令和5年3月31日現在、登録者は47名)
-----------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事 業 内 容	主として、小学生の下校時の見守りを通学路上にて行う。
------------------	----------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		0		0		0	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	5	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	5	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	5	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	2	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	
		合 計					27	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	地域見守りボランティアによる立哨により、犯罪に対する抑止力になる。	下校の時間帯、犯罪への抑止力になっている事は、喜ばしいことと感じている。
協働することで感じた課題や今後の方向性	将来、高齢化による人材確保が困難となり、事業の継続が難しくなることが予測されるため、長期的視野に立って、町のDX事業の推進に相乗する等の方策を検討すべきと料する。	高齢になり立哨する日が減ってきた。 定年退職後の若い世代も年金がもらえるまで就労する必要があり、後任が見つからない。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業名称	広陵町固定資産評価員説明	所管部署	課名 税務課
----	---	--------	--------------	------	-----------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
	7-2	健全な財政運営の推進		1	安定した財源の確保

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	固定資産評価員
協働実施手法	3-1 審議会、策定委員会等

具体的な対象	固定資産の評価に関する知識及び経験を有する者から選任された広陵町固定資産評価員	⑨ 対象者の母数	1人
--------	-----------------------------------------	----------	----

目的・期待	地方税法404条に基づき設置しているもの。固定資産評価基準に従い、固定資産を適正に評価し、市町村長が行う価格の決定を補助することが目的。
-------	----------------------------------------------------------------------

事業内容	当該年度の課税内容の概要を共有し、固定資産が適正に評価されているか確認する。
------	----------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		5		5		5		5	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来年度から
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4	
					評価・見直し	事業の目標設定をするともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4	
		合 計					25	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	固定資産を適正に評価し、市町村長が行う価格の決定の補助に寄与していただいている。	固定資産を適正に評価し、市町村長が行う価格の決定を補助している。
協働することで感じた課題や今後の方向性	現在の評価員は平成21年に就任していただいておりますが、高齢になっておられることから、委員の交代を希望されているが、なかなか後継者の目処が立たない。	高齢であることから、委員の交代を希望する。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	2	事務事業名称	たばこ税啓発活動委託	所管部署	課名 税務課
----	---	--------	------------	------	-----------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
	7-2	健全な財政運営の推進		1	安定した財源の確保

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵町たばこ組合
協働実施手法	1-1 委託

具体的な対象	広陵町たばこ組合の組合員	⑨ 対象者の母数	13人
--------	--------------	----------	-----

目的・期待	町たばこ税は、たばこを購入した販売店の所在する自治体の収入となるため、「たばこは町内で買しましょう」というPR活動を行い、町税の増収に繋げることを目的に、啓発活動の実施を委託している。
-------	----------------------------------------------------------------------------------------------

事業内容	かぐや姫まつりにブースを出展しての啓発活動を中心に、組合員の各店舗でもたばこ購入者などに啓発活動を行っている。
------	---------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・～R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		50		56		91		100	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価	参画・協働の原則に基づいた評価項目				
5	4	3	2	1	
とてもできた それなりにできた どちらでもできない 全然できなかった	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。			
	対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。			
	自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。			
	相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。			
	情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。			
	評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。			
	相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。			
<b>合 計</b>					
総合評価	A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下

行政の評価	協働する相手の評価
4	来年度から
4	
4	
4	
2	
2	
3	
23	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	たばこは購入した販売店の所在する自治体の税収になるということあまり知られておらず、啓発活動によって、意識付けのきっかけになると考えられる。	たばこの売り上げが上がること、事業者としても増収になり、結果的に税収も上がることになるので、啓発活動を行うことは両者にとってメリットがある。
協働することで感じた課題や今後の方向性	町として健康増進を促進する立場とたばこ税増収のための啓発をする立場の両立のため、たばこを吸う人も吸わない人も心地よい環境づくりを検討していくことが必要。	組合員の高齢化による体制維持の難しさや、たばこことの向き合い方。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業名称	福祉団体活動支援事業委託	所管部署	課名 社会福祉課
----	---	--------	--------------	------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
	4-6	地域福祉の充実		1	支え合い助け合う地域づくりの推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	福祉ボランティア団体
協働実施手法	1-1 委託

具体的な対象	各種団体(遺族会、母子寡婦福祉会、身体障がい者交友会、手をつなぐ育成会、老人クラブ)	⑨ 対象者の母数	5団体
--------	--------------------------------------------	----------	-----

目的・期待	各種団体への福祉団体活動支援に係る事務を委託することによる担当職員の事務軽減
-------	----------------------------------------

事業内容	営利を目的としない(社)広陵町社会福祉協議会へ各種福祉団体の事務局業務を委託
------	----------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		443		488		666		1,624	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	3	来年度から
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	
		合 計					21	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	同じ目的を持った人たちが支え合い助け合うことによって地域づくりの推進につながっている。	行政との連携により、住民一人ひとりが地域福祉活動の担い手となる人づくりの重要性が高まっている。
協働することで感じた課題や今後の方向性	福祉団体によるボランティア活動に対し、町が補助金による活動支援を行っていること。	行政との連携により、地域福祉の推進につながっている。



令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	2	事務事業 名称	相談支援事業委託料(精神)	所管部 署	課名 社会福祉課
----	---	------------	---------------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	4-5	障がい者福祉の充実		1	生活支援の充実

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	社会福祉法人 萌 生活支援センターなっつ
--------	----------------------

協働実施手法	1-1 委託
--------	--------

具 体 的 な 対 象	町内在住の精神疾患(疑いを含む)を抱える当事者(障がい者手帳の有無は問わない)及びそれらの介護にあたる介護者	⑨ 対 象 者 の 母 数	531名
----------------------------	--------------------------------------------------------	---------------------------------	------

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	精神疾患を理由に日常生活に困難さを感じる障がい者に対する相談支援機関となっており、課題解決に向けて介入してもらえる唯一の委託相談支援事業所となっている。
--------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------

事 業 内 容	町から委託を受け、福祉サービスの利用や生活上の困りごとについて相談や情報提供を行う専門的な相談支援機関である。一般的な就労や就学に関するだけでなく、家族・友人等の対人関係、家事や金銭管理、医療機関への受診に関することなど日常生活全般において当事者1人ではクリアできない課題に対して相談に乗り、どうすれば解決できるかを当事者と共に検討し、当事者の能力に見合った支援を行うことで地域生活を安定して送れるよう援助する「地域の支援者」となっている。
------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		2,040		2,040		2,040		2,120	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	3
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3
		合 計						
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	24	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
							B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	地域で生活を送る精神疾患を持つ当事者にとっては身近な場所で相談できる機関となっている。ケースによっては直接面談のために自宅まで訪問するなど、外出がしにくい当事者にとっては重宝される存在であると考えます。	行政とも連携しつつ、うまく役割分担ができていと思う。あくまで相談支援機関であり、実際のサービス等の決定は行政であるが、一緒にケースに関わることができているため短期間でサービス利用に繋がっている。
協働することで感じた課題や今後の方向性	近年、精神疾患を患う当事者が増えつつあり、相談ケースも増加を辿っている。現在は3人の専門職が相談業務を担っているが、本町の委託以外の業務も抱えていることから、対応に時間がかかることもある。	他市と比べても本町は旧村地区に困難を抱えている当事者が多いように感じる。早期介入することで生活に安定をもたらすことができるが、問題が浮き彫りになって初めて繋がるケースも少なくはない。行政主導でもっとアセスメントをし繋いでほしい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	3	事務事業 名称	相談支援事業委託(児童)	所管部 署	課名 社会福祉課
----	---	------------	--------------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	4-5	障がい者福祉の充実		3	障がい児保育・教育の充実

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	NPO法人 ひなた 相談支援センターふわら
--------	-----------------------

協働実施手法	1-1 委託
--------	--------

具 体 的 な 対 象	町内在住の発達障がい児(疑いを含む)を持つ保護者	⑨ 対 象 者 の 母 数	294名
----------------------------	--------------------------	---------------------------------	------

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	発達障がい(疑いを含む)のある児童の保護者に対する相談支援機関であり、育児や就学における課題解決に向けて専門的な知識をもって介入してもらえる唯一の委託相談支援事業所となっている。
--------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------

事 業 内 容	発達障がいにより園や学校で上手く馴染むことができない、家庭内で保護者がどのようにかかわって良いかわからないといった課題に対して相談を受け、対象児の特性や親のかかわり方についてアセスメントし、適切な療育に繋がれるように助言、情報提供、サービス利用にかかる援助を行っている。また、保護者自身が考え方をえられるように、保護者への「ペアレントトレーニング」を実施するなど、重要な支援機関となっている。
------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		1,200		1,200		1,200		1,500	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	5	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	5	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	2	
		合 計					28	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	本町では発達障がい児またはその親に対して適切な介入・助言をしてもらえる唯一の機関であるとともに専門的な知識を有して綿密に関わってもらえるとともに、行政に対しても様々な提案をしてもらえることから「協働」において重要な存在である。	園や学校も事業所職員が訪問することに理解を示してもらえたため、対象児の日常生活が把握しやすい。
協働することで感じた課題や今後の方向性	多くのケースが福祉サービスに繋がっており、本来であれば行政も相談窓口として機能を発揮すべきだが、当課には同機関と共にケースに介入できる専門職がない。近年、発達障がい児は増加の一途を辿っていることから現状の体制に焦りを感じる。	ニーズが増え、相談件数も毎年増加傾向にあるが、本来であればまずは行政で対象者や保護者についてアセスメントし、介入が必要なケースや困難ケースを繋いでもらわないといけない。相談機能を持たない課の体制に強く疑問を感じる。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	4	事務事業 名称	相談支援事業委託(身体)	所管部 署	課名 社会福祉課
----	---	------------	--------------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	4-5	障がい者福祉の充実		1	生活支援の充実

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	社会福祉法人 鳳雛会 相談支援センターどんぐり
協働実施手法	1-1 委託

具 体 的 な 対 象	町内在住の身体障がい者や難病等の指定を受けた医療的ケアが必要な者及びそれらの介護にあたる介護者	⑨ 対 象 者 の 母 数	1180名
----------------------------	-------------------------------------------------	---------------------------------	-------

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	身体障がいや難病を理由に日常生活に困難を感じる障がい者に対する相談支援機関となっており、課題解決に向けて介入してもらえる唯一の委託相談支援事業所となっている。
--------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------

事 業 内 容	身体障がい者が在宅で生活をする際に必要な福祉サービスや補装具、日常生活用具に対する情報提供や、医療的ケアが必要な対象者に対しては医療機関や訪問看護事業所やヘルパー事業所と随時連携を取り合って情報を共有する等、行政の目が行き届かない在宅での生活状況を随時把握し、その都度適切なサービス等の利用を当事者及び行政に提案してもらえる重要な機関となっている。
------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		1,416		1,416		1,416		1,416	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	3	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	2	
合 計							23	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	在宅生活を営む身体障がい者に対して迅速に対応し、適切なサービス等の情報提供を行い、利用に繋ぐ援助してもらえる。特に身体障がい者は外出の困難さを有する当事者が多いことから、自宅への訪問により相談を受けてもらえる重要な機関である。	サービスやその他の制度においても申請から決定まで早急に対応してもらっているため、介入する事業所の調整が迅速に行える。
協働することで感じた課題や今後の方向性	当課に身体障がい者福祉に係る専門職がないことから、サービスの利用等についても事務的になっている。特に医療的ケアが必要な方については行政ももっと介入して共に生活を見守る必要がある。現状の体制に不安・焦燥を感じる。	行政ももっと地域のサービス事業所のことについて情報を把握してほしい。提供できるサービスの内容や現在空きがあるかなど一事業所が一から聞いて回るには限界がある。身体障がい福祉の専門職がいればこれらの情報共有も円滑に図れると思う。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	10	事務事業 名称	民生委員・児童委員協議会	所管部 署	課名 社会福祉課
----	----	------------	--------------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	4-7	社会保障の適正運用		1	低所得者福祉の適正運用

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	民生委員・児童委員
協働実施手法	1-2 補助金

具 体 的 な 対 象	民生委員・児童委員	⑨ 母 数	55人
----------------------------	-----------	-------------	-----

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	民生委員法第24条に定める任務の遂行及び円滑な運営を図ることを目的としている。関係行政機関との連絡を密にし、町の各種団体とも連携し、住民の側に立ち社会福祉の増進に努めるために必要な知識や技術の習得のため研修を行っている。
--------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事 業 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当地域の生活保護家庭に支払通知書の届けと、生活状態の把握。</li> <li>・担当地域の対象児童の準要保護会議への出席。</li> <li>・幼・保・小・中入(卒)園式、入学式、卒業式に出席</li> <li>・住民の相談内容により関係機関・施設と連携</li> </ul>
------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		2,824		1,828		2,893		2,893	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	5
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	5
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4
		合 計					29	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	民生委員・児童委員から行政機関では知り得ない情報を得ることが出来た。	行政機関からの情報提供により福祉サービスに関する情報提供することが出来た。
協働することで感じた課題や今後の方向性	情報共有することによる連携事業を推進していきたい。	生活することに悩んでいる住民に対して行政と連携して支援していきたい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	9	事務事業 名称	法律相談	所管部 署	課名 社会福祉課
----	---	------------	------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	4-6	地域福祉の充実		1	支え合い助け合う地域づくりの推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	川崎法律事務所 川崎祥記弁護士
協働実施手法	4 その他

具 体 的 な 対 象	無料法律相談申込者	⑨ 母 数 の 対 象 者 の 数	7名/毎月
----------------------------	-----------	-------------------------------------------	-------

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	相続や離婚、交通事故や近隣とのトラブルなど日常のさまざまな法律問題について、法律の専門家である弁護士に相談することによって悩みや不安を解消することが目的。
--------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------

事 業 内 容	月1回の川崎法律事務所 川崎祥記弁護士との無料法律相談(20分/1人)
------------------	-------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		300		270		360		360	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	
合 計							24	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	弁護士先生に相談することにより、町民の悩みや不安を解消することにつながっている。	行政との連携により、地域福祉の充実につながっている。
協働することで感じた課題や今後の方向性	弁護士先生の専門的な知識によって問題解決されていることから今後も継続的に続けていく必要があると思われる。	今後も行政との連携により、地域福祉に係る支援を行っていく。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	8	事務事業名称	更生保護女性会	所管部署	課名 社会福祉課
----	---	--------	---------	------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向番号	展開方向名
4-6	地域福祉の充実	1	支え合い助け合う地域づくりの推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵町更正保護女性会会員
協働実施手法	1-2 補助金

具体的な対象	広陵町更正保護女性会会員	⑨対象者の母数	31名
--------	--------------	---------	-----

目的・期待	更正保護事業に女性の立場から進んで協力し、犯罪や非行のない明るい社会の建設に貢献する。
-------	---------------------------------------------

事業内容	青少年の保護育成をし、非行や犯罪のない、明るい楽しい社会を創るための調査、研究、活動を行っている。
------	---------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		41		41		112		112	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来年度から
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4	
		合 計					25	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	女性の立場で更正保護事業に取り組まれていることから行政担当職員では知り得ない情報を得ることが出来た。	行政機関からの情報提供により福祉サービスに関する情報を得ることが出来た。
協働することで感じた課題や今後の方向性	情報共有することによる連携事業を推進していきたい。	明るく楽しい社会を創るため、行政と連携して支援していきたい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	6	事務事業名称	地域福祉計画策定委員会	所管部署	課名 社会福祉課
----	---	--------	-------------	------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向番号	展開方向名
4-6	地域福祉の充実	1	支え合い助け合う地域づくりの推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵町地域福祉計画策定委員
協働実施手法	3-1 審議会、策定委員会等

具体的な対象	学識経験者、町の関係団体の代表者、公募委員などからなる広陵町地域福祉計画策定委員	⑨対象者の母数	20名
--------	------------------------------------------	---------	-----

目的・期待	公募による委員を含む委員会を開催し、さまざまな分野及び立場から選出された委員から意見をいただき、今後の地域福祉づくりに反映することを目的とする。
-------	--------------------------------------------------------------------------

事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉計画の策定に関すること。</li> <li>・過年度の地域福祉事業の進捗評価。</li> </ul>
------	------------------------------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		44		0		272	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価	参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価		
5	4	3	2	1	目的共有	2	来年度から		
					対等性	2			
					自主・自立	2			
					相互理解	2			
					情報公開・透明性	2			
					評価・見直し	2			
					相互変革	2			
合 計						14	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。		
総合評価					A評価 35～26	B評価 25～21		C評価 20～16	D評価 15～11

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動を自粛し、策定委員会の開催を見合わせた。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動を自粛し、策定委員会の開催を見合わせた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	来年度(令和5年度)は、第2期の計画策定する年度であり、住民・関係団体・行政が連携して計画策定を行う。	計画を策定するあたり、さまざまな分野及び立場から選出された委員による助言などを通じて、行政と連携し支援を行う。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	5	事務事業 名称	社会福祉協議会	所管部 署	課名 社会福祉課
----	---	------------	---------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	4-6	地域福祉の充実		1	支え合い助け合う地域づくりの推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵町社会福祉協議会
協働実施手法	1-2 補助金

具 体 的 な 対 象	広陵町社会福祉協議会	⑨ 母 数	社協職員8名
----------------------------	------------	-------------	--------

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	社会福祉に対する地域住民のニーズは拡大し、多様化する現代社会の動向を注視しながら、その流れに対応した施策のもと、みんなが安心して暮らせる地域づくりを目指し、地域福祉事業を実施する。
--------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------

事 業 内 容	本町における社会福祉事業その他地域福祉活動の推進。
------------------	---------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		13,018		26,075		27,409		29,461	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	5	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4	
		合 計					27	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	情報を共有することで支え合い助け合うことができ、地域づくりの推進につながっている。	行政との連携により、住民一人ひとりが地域福祉活動の担い手となる人づくりの重要性が高まっている。
協働することで感じた課題や今後の方向性	情報共有することによる連携事業を推進していきたい。	行政との連携により、地域福祉の推進につながっている。



令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業 名称	生活支援コーディネーター及び生活支援体制整備協議体 運営業務委託	所管部 署	課名 介護福祉課
----	---	------------	-------------------------------------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	4-4	高齢者福祉の充実		1	地域包括ケアシステムの充実・推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	第1層、第2層協議体、住民
協働実施手法	1-2 補助金

具 体 的 な 対 象	65歳以上の高齢者	⑨ 母 数 の 対 象 者 の 数	9,402人 (令和4年12月末 日現在)
----------------------------	-----------	-------------------------------------------	-----------------------------

目 的 ・ 期 待	介護予防と生活支援において、住民の自助力の向上と、地域の住民同士の見守りや助け合いなど互助力で支え合える地域づくりを目指す。(生活支援体制整備事業) 住民が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けていけるために、介護保険サービスだけでなく、住民相互による生活支援の体制がある地域づくりを目指す。
-----------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事 業 内 容	令和4年度 社会福祉協議会に事業委託し、生活支援コーディネーターとともに地域課題の把握。 第2層、第1層協議体の定例会を年2回開催(コロナ禍で開催できず) 協議体メンバーだけでなく、地域でサロンやボランティア活動をしている方と勉強会を開催。(令和4年度2回開催)
------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		2,841		2,904		2,835		2,835	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価	
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4	
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	
		合 計							25
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下			B

来年度から

↑ 自動計算

左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。  
※協働する相手の評価については、来年度から実施します。

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	生活の不安、困り事などを話し合い、課題を共有することができた。	生活の不安、困り事などを話し合い、課題を共有することができた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	住民同士の助け合い活動の必要性を感じている人や活動を実施している人も少なく、また近所の人に助けて欲しいと言える人も少ない。 今後も引き続き、住民の意識改革やインフォーマルサービスの構築が必要である。	協議体自身の意識改革も必要である。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	2	事務事業名称	地域資源情報共有システム情報更新等委託業務	所管部署	課名 介護福祉課
----	---	--------	-----------------------	------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向番号	展開方向名
4-4	高齢者福祉の充実	1	地域包括ケアシステムの充実・推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	町内住民
協働実施手法	1-2 補助金

具体的な対象	65歳以上高齢者及びその家族等 医療と介護に関わる専門職	⑨対象者の母数	65歳以上人口 9,402人 (令和4年12月末日現在)
--------	---------------------------------	---------	------------------------------------

目的・期待	医療と介護の両立を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう医療と介護の関係者が協働できる地域づくりを目指す。
-------	----------------------------------------------------------------------------------

事業内容	令和3年度から地域資源情報共有システムを導入し、医療と介護のサービスを必要とする高齢者及びその家族が情報を容易に収集し、サービスをスムーズに選択できるようにしている。 また、ケアマネジャーが利用者の状態に合わせて、医療と介護との連携がスムーズに図ることができるようシステムの活用を勧めている。
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円				3,635		1,716		1,716	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来年度から
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	
		合 計					25	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	地域の社会資源の把握と見える化ができた。	地域資源が容易に把握できるようになった。
協働することで感じた課題や今後の方向性	システム活用者が増加するように周知していく。 ケアマネ研修会等での周知	地域資源が容易に把握できるようになった。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	3	事務事業 名称	生活支援体制整備事業	所管部 署	課名 介護福祉課
----	---	------------	------------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	4-4	高齢者福祉の充実		1	地域包括ケアシステムの充実・推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	第1層、第2層協議体、住民
--------	---------------

協働実施手法	1-2 補助金
--------	---------

具 体 的 な 対 象	65歳以上の高齢者	⑨ 母 数 の 対 象 者 の 数	9,402人 (令和4年12月末日現在)
----------------------------	-----------	-------------------------------------------	-------------------------

目 的 ・ 期 待 成 果	介護予防と生活支援において、住民の自助力の向上と、地域の住民同士の見守りや助け合いなど互助力で支え合える地域づくりを目指す。(生活支援体制整備事業) 住民が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けていけるために、介護保険サービスだけでなく、住民相互による生活支援の体制がある地域づくりを目指す。
---------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事 業 内 容	令和4年度 社会福祉協議会に事業委託し、生活支援コーディネーターとともに地域課題の把握。 第2層、第1層協議体の定例会を年2回開催(コロナ禍で開催できず) 協議体メンバーだけでなく、地域でサロンやボランティア活動をしている方と勉強会を開催。(令和4年度2回開催)
------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		2,841		2,904		2,835		2,835	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価	
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4	
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	
		合 計							25
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下			B

来年度から

左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。  
※協働する相手の評価については、来年度から実施します。

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	生活の不安、困り事などを話し合い、課題を共有することができた。	生活の不安、困り事などを話し合い、課題を共有することができた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	住民同士の助け合い活動の必要性を感じている人や活動を実施している人も少なく、また近所の人に助けて欲しいと言える人も少ない。 今後も引き続き、住民の意識改革やインフォーマルサービスの構築が必要である。	住民同士の助け合いの活動は必要である。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	4	事務事業 名称	老人クラブ連合会	所管部 署	課名 介護福祉課
----	---	------------	----------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	4	高齢者福祉の充実		3	高齢者を支える環境の充実

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	老人クラブ連合会 会員
協働実施手法	1-2 補助金

具 体 的 な 対 象	老人クラブ連合会 会員	⑨ 母 数	全41団体 (2,056人)
----------------------------	-------------	-------------	-------------------

目 的 ・ 期 待	老人クラブ連合会の活動を通じ、各单位老人クラブの親睦を図り、高齢者の趣味や生きがいと健康づくりに資するとともに、社会活動への参加の促進を目的とする。 老人クラブ連合会の指導のもと、単位老人クラブがそれぞれの地域性を活かし、自主・自立活動の発展と調整、情報交換等の老人福祉の向上をすすめる多彩な活動を展開していく。
-----------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事 業 内 容	広陵町老人クラブ連合会活動助成事業及び広陵町単位老人クラブ活動助成事業に係る補助金を交付する
------------------	------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		2,353		2,440		2,429		3,153	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3
		合 計					26	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	老人クラブがそれぞれの地域性を活かし、自主・自立活動の発展と調整、情報交換等の老人福祉の向上をすすめることができた。	行政とともに連携して、情報交換を行うことで自主・自立活動の向上に貢献できた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	これからも引き続き、自主・自立活動の発展と調整、情報交換等を推進し、老人福祉の向上をすすめていきたい。	今後も自主・自立活動の発展と調整、情報交換等を行政とともに連携して支援していきたい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	5	事務事業 名称	介護予防活動支援事業	所管部 署	課名 介護福祉課
----	---	------------	------------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	4-4	高齢者福祉の充実		1	地域包括ケアシステムの充実・推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	医療・介護の専門職、ボランティア、住民
協働実施手法	1-1 委託

具体的な 対象	高齢者を中心とした地域住民	⑨ 対象者の 母数	約9600人
------------	---------------	-----------------	--------

目的・ 期待	誰もが参加できる介護予防活動の拠点(住民主体の通いの場等)を地域の実情に応じて効果的かつ効率的に支援することを目的とする。 住民の主体的な介護予防(自助)と住民相互の助け合い活動(互助)の育成
-----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

事業 内容	住民ボランティア(KEEP)の養成講座を開催する。 養成したボランティアが地域の通いの場の立ち上げや継続支援に関わる。 医療・介護の専門職が、ボランティアや通いの場参加者を育成していく。
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		155		153		165		480	増加

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・ 透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4	
合 計							28	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	住民主体の通いの場が増加し、住民の自助と互助によって介護予防が継続できている。	ボランティア活動によって、自分の介護予防に繋がっている。 地域のつながりができている。
協働することで感じた課題や今後の方向性	既存の通いの場に参加できない住民もいる。新規の通いの場を増やして多様な場づくりが必要である。	ボランティアの高齢化が進んでいるため、相互の協力や新規ボランティアの育成が必要である。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	6	事務事業 名称	介護保険事業計画及び高齢者福祉計画策定 委員会	所管部 署	課名 介護福祉課
----	---	------------	----------------------------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	4-4	高齢者福祉の充実		2	介護保険サービスの充実強化

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	介護保険事業計画及び高齢者福祉計画策定委員
--------	-----------------------

協働実施手法	3-1 審議会、策定委員会等
--------	----------------

具 体 的 な 対 象	学識経験者、保健医療関係者、福祉関係者、被保険者代表(公募委員)、費用負担代表者、行政代表	⑨ 対 象 者 の 母 数	16
----------------------------	-----------------------------------------------	---------------------------------	----

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	広陵町における介護保険事業に係る保険給付の円滑な実施を確保するため及び高齢者福祉事業推進のための基本的な指針に基づいて、介護保険事業計画及び高齢者福祉計画を策定する。
--------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------

事 業 内 容	第9期介護保険事業計画及び高齢者福祉計画策定するにあたり、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査と在宅実態調査を実施した。 委員会は開催せず。(委員会は3年に1回の計画策定時) 令和5年度は委員会を5回程度開催する予定。
------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		5,300		0		0		5,911	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価	参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価		
5	4	3	2	1	目的共有	3	来 年 度 か ら		
					対等性	4			
					自主・自立	3			
					相互理解	4			
					情報公開・透明性	3			
					評価・見直し	3			
					相互変革	3			
合 計						23	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。		
総合評価					A評価 35～26	B評価 25～21		C評価 20～16	D評価 15～11

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果		
協働することで感じた課題や今後の方向性		

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業 名称	がん予防推進員活動	所管部 署	課名 けんこう推進課
----	---	------------	-----------	----------	---------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	4-3	保健・医療の充実		2	健康診査・保健指導の充実

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	がん予防推進員
協働実施手法	2-2 共催

具 体 的 な 対 象	広陵町民で、がん予防推進員講座を受講し、けんこう推進課と協働でがん検診受診率向上のための活動をするためにがん予防推進員登録をされた方	⑨ 対 象 者 の 母 数	広陵町民
----------------------------	--------------------------------------------------------------------	---------------------------------	------

目 的 ・ 期 待 成 果	(目的)広陵町民のがん予防、生活習慣病予防等の健康意識を高め、健康管理の推進を図り、町民の健康づくりに寄与することを目的とする。 (期待成果)がん予防推進員養成をすることで、住民の方に知識の向上および受診行動へのきっかけを作ることができる。また、がん予防推進員の方々と行政が協働実施することで、相乗効果が期待できる。
---------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事 業 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度 推進員11名で活動。月1回の会議で活動内容を検討</li> <li>・令和5年度も同様の実施方法で活動。感染症の状況により啓発活動を増加していく。</li> <li>・がん及びがん検診に関する講演会を実施し、正しい知識の習得をしてもらい、広く周知してもらう。</li> <li>・がん検診受診勧奨啓発活動の検討および企画運営(元氣塾、世界禁煙デー、かぐや姫まつり、いのちを守るまちづくりイベント等での啓発活動、健康かわら版の作成および配布による啓発など)を実施してもらう。</li> <li>・自身のがん検診受診など、健康意識の向上を図ってもらう。</li> </ul>
------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		93		29		241		630	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価					参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価		
5	4	3	2	1	目的共有	対等性	自主・自立	相互理解	情報公開 ・透明性	評価・見直し	相互変革	合計	総合評価
					協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	29	A
と も で き た	そ れ な り に で き た	あ ま り に で き な い	あ ま り で き な か つ た	全 然 で き な か つ た								↑ 自動計算	
					合計					29	A	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。	
					A評価	B評価	C評価	D評価	E評価				
					35～26	25～21	20～16	15～11	10以下				

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	行政からの情報発信と異なり、住民から住民への啓発活動は、身近で自分事として受け入れてもらいやすく、足を止めて耳を傾けてもらえる機会が増えた。	行政が行ってくれていたことの中にも、住民が住民にできることがあるというのがわかった。
協働することで感じた課題や今後の方向性	コロナ禍においては、啓発活動の場が少なくなり活動機会が減ったが、対面以外での活動の場をがん予防推進員自身で見つけ出すことができ、今後の活動においても自主性を尊重し協働していく。	協働で行うことは、行政側の立場も考えて情報発信していくことになるので、情報共有が大切。お互いにできることをできるときに進めていく。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	2	事務事業 名称	巡回型健康教室 広陵元気塾	所管部 署	課名 けんこう推進課
----	---	------------	---------------	----------	---------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策 番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
4-3	保健・医療の充実		2	健康診査・保健指導の充実

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	健康運動指導士・畿央大学
協働実施手法	2-2 共催

具 体 的 な 対 象	全町民	⑨ の 母 数 者	約35,000人
----------------------------	-----	-----------------------	----------

目的・  
期  
待  
成  
果  
(目的)地域に出向くことで、交通手段のない住民へも広く健康増進に興味を持って参加してもらえる機会を得ることができる。より多くの方と出会うことで、地域コミュニティを形成してもらう。  
(期待成果)身近なところでの活動ができることで、地域コミュニティを利用した健康づくりにつながる。

事業  
内  
容  
・令和4年度は定員を設けた形で実施し931人(令和5年1月31日時点)の参加者となっている。コロナ感染症流行前より参加者数は減っている。  
・令和5年度はコロナ感染症流行前のように定員をなくし、下記内容で実施予定  
・各小学校区ごとに月1回運動もしくは栄養の教室を巡回で実施する。運動については体育館、栄養については新型コロナウイルス感染症の流行前は、自治会館や公民館を利用させていただき、より身近な場所での開催としていた。  
・地域の健康課題を把握し、町民とのつながりを持つために、各地区担当保健師と健康運動指導士もしくは管理栄養士が出向く。  
・参加予約の必要はないため、気軽に参加していただける。

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		601		828		939		1,323	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	5	来年度から
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4	
		合 計					29	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

↑自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	行政にいない専門家によって、講師を務めてもらうことで、住民へより専門的な視点での健康への意識付けができた。	直接住民の声を聞くことができ、地域のネットワークづくりの一環として実施できた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	代替要員の確保が難しい。	今後も事業目標達成のために役割を明確にして協働で事業を展開していく。



令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	3	事務事業 名称	食育推進会議	所管部 署	課名 けんこう推進課
----	---	------------	--------	----------	---------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	4-3	保健・医療の充実		1	自主的な健康づくり活動の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵町食育推進会議委員
協働実施手法	3-1 審議会、策定委員会等

具 体 的 な 対 象	学識経験者、町の関係団体の代表者、公募委員などからなる広陵町食育推進会議委員	⑨ 母 数	16人
----------------------------	----------------------------------------	-------------	-----

目 的 ・ 期 待	広陵町食育推進会議委員と関係課で食育推進会議を開催し、様々な立場から選出された委員からの意見を食育推進施策に反映することを目的とする。令和元年度に第2次広陵町食育推進計画を策定し、家庭、地域、関係機関、行政が連携しながら町全体で一貫した取り組みを行い、食育を推進する。
-----------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事 業 内 容	関係機関や関係課で実施している食育推進に関わる事業の報告、委員からの食育推進に関することについての意見など会議は、年2回を想定。
------------------	------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		-		-		64		80	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開 ・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	4	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3	
合 計							26	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	食育推進に関して、委員と関係各課で情報共有等が行えたことで、各課の取り組みに反映させることができた。	町が取り組んでいる食育施策について全体が把握できる。
協働することで感じた課題や今後の方向性	今後も情報共有や意見交換を通して、委員と各課が繋がり、広陵町の地域特性を生かした食育推進の取り組みが実施できるようにしたい。	各課や関係機関が繋がり、協働で実施できる取り組みを増やしていくことで大きな成果が生み出せるのではないかと考える。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	事務事業名称	健康増進計画策定等委員会	所管部署	課名
				けんこう推進課

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
	4-3	保健・医療の充実		2	健康診査・保健指導の充実

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	健康増進計画策定等委員
協働実施手法	3-1 審議会、策定委員会等

具体的な対象	学識経験者、町の関係団体の代表者、公募委員などからなる健康増進計画策定等委員	⑨対象者の母数	13人
--------	----------------------------------------	---------	-----

目的・期待	健康増進計画策定等委員と関係課で健康増進計画策定等委員会を開催し、様々な立場から選出された委員からの意見を健康増進計画による事業に反映することを目的とする。
-------	--------------------------------------------------------------------------------

事業内容	関係課から健康増進計画に関わる事業の計画および実績の報告し、委員からの意見などを参考に計画に基づいた事業実施を行う。 会議は、年2回を想定。
------	---------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		44		68		60		88	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	4	来年度から	
					対等性	4		
					自主・自立	4		
					相互理解	4		
					情報公開・透明性	4		
					評価・見直し	4		
					相互変革	4		
					合計	28	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。	
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下		A

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	健康増進計画に沿った事業展開において、各委員の意見や関係各課との情報共有を行ったことを反映した。	まちの健康課題に応じた健康増進事業の取り組みについて国の動向等を参考に共有できた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	今後も情報共有や意見交換を通して、町民の健康意識を高めるような取り組みを行っていく。	新しい試みがフィードバックできる取り組みをけんこう福祉部全体のとりくみとして実施し、今以上の期待をしていますので計画に関しても助言をしていきたい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業 名称	子ども・子育て会議	所管部 署	課名 こども課
----	---	------------	-----------	----------	------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	3-1	子育て支援の充実		2	子どもの育ちを支援する環境づくりの推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵町子ども・子育て会議委員
協働実施手法	3-1 審議会、策定委員会等

具 体 的 な 対 象	学識経験者、保護者、公募委員などからなる広陵町子ども・子育て会議委員	⑨ 母 数 の 対 象 者 の 数	16人
----------------------------	------------------------------------	-------------------------------------------	-----

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	令和2年から令和6年までを計画期間とした「第二期広陵町子ども・子育て支援事業計画」について、定期的にその進捗状況の点検・評価等を審議し、計画実現を目指している。
--------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------

事 業 内 容	前年度の子ども・子育て事業の進捗評価
------------------	--------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		42		48		109		194	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	2	
		合 計					22	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	子ども・子育て事業について、関係する機関、保護者等から直接意見が聞けることで、その成果や現状の問題などが直接的に伝わった。	
協働することで感じた課題や今後の方向性	全体的な意見ではなく、個人的な問題など、委員会の趣旨とはずれた発言が出ることもあり、その都度軌道修正が必要である。	

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	2	事務事業 名称	みんなのアフタースクール	所管部 署	課名 こども課
----	---	------------	--------------	----------	------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策 番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
3-1	子育て支援の充実		2	子どもの育ちを支援する環境づくりの推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	放課後NPOアフタースクール
協働実施手法	2-2 共催

具 体 的 な 対 象	放課後子ども育成教室に入会している子ども	⑨ 母 数 の 対 象 者 の 数	253人
----------------------------	----------------------	-------------------------------------------	------

目 的 ・ 期 待	利用児童の増加や、コロナ禍の影響で従前に実施していた各種イベント等が実施できず楽しみが減少している放課後子ども育成教室利用児童が、放課後NPOアフタースクールが実施するプログラム(みんなのアフタースクール)へ参加することで、子どもたちの放課後の充実を図る。
-----------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事 業 内 容	ZOOMを用いたオンライン型のプログラムで、放課後NPOアフタースクールの職員が講師となり、画面越しに子どもたちに対して様々な体験学習を行う。
------------------	-------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		0		0		0		0	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	4
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	4
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	4
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3
		合 計					26	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

来年度から

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	専門知識や豊富な経験を有する団体と協働することで、行政単独では実施困難な充実した体験学習の提供が可能となった。	
協働することで感じた課題や今後の方向性	場所や参加可能人数に制約がある場合もあり、特定のクラブではハード的な問題で実施できないことがあったため、今後はクラブの教室以外での実施等を検討する必要がある。	

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業 名称	広陵西幼稚園・広陵西第二幼稚園閉園事業	所管部 署	課名 認定こども園準備室
----	---	------------	---------------------	----------	-----------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	3-1	子育て支援の充実		2	子どもの育ちを支援する環境づくりの推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵西小学校区の住民(特に未就学児のいる保護者)
--------	--------------------------

協働実施手法	4 その他
--------	-------

具 体 的 な 対 象	新設された認定こども園の収容可能園児数	⑨ 母 数 の 対 象 者 の 数	174人
----------------------------	---------------------	-------------------------------------------	------

目 的 ・ 期 待 成 果	近年、定員割れの状況が続いていた広陵西幼稚園及び広陵西第二幼稚園を統廃合の上、新たに幼保連携型認定こども園を整備することにより、校区内において民間のノウハウを活用した質の高い幼児教育を提供することが可能になるとともに、本町でもニーズが極めて高い幼児保育の受け皿を増やすことで待機児童の解消に寄与するため、認定こども園の整備を進める法人に対して支援を実施する。
---------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事 業 内 容	公私連携幼保連携型認定こども園を法人が整備するにあたり、国及び県の支援メニューを活用した上で財政面での支援を実施することにより、従来の公立園と比較して安価なコストでの整備を実現する。 令和3年度:実施設計、第一期工事(園舎等)の10% 令和4年度:第一期工事(園舎等)の90% 令和5年度:第二期工事(園庭等)
------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円				34,573		309,049		11,049	廃止

今後の方針	廃止	拡大・縮小・廃止の理由	令和5年度より認定こども園が開園し、園庭整備等も令和5年度内に完了するため。
-------	----	-------------	----------------------------------------

令和 4 年度 事業評価	参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価			
5	4	3	2	1	目的共有	2	来 年 度 か ら			
					対等性	2				
					自主・自立	3				
					相互理解	3				
					情報公開・透明性	3				
					評価・見直し	2				
					相互変革	4				
合 計						19	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。			
総合評価					A評価 35～26	B評価 25～21		C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	新設される認定こども園の運営に当たっての意見(保護者負担額など)を反映させることができた。	認定こども園を運営する公私連携法人に対して町と保護者が連携し、意思を伝えることができた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	町としての考え方を協働する相手に説明したが、意図が伝わっていない(公私連携の意味合いなど)点があり、協働するうえで支障があった。	事前の情報発信などが不足しており、協働するうえで支障があった。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業名称	なかよし広場(エコセンター、さわやかホール)	所管部署	課名
					子育て総合支援課

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
	3-1	子育て支援の充実		2	子どもの育ちを支援する環境づくりの推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	子育てに関するボランティア
協働実施手法	2-8 人材

具 体 的 な 対 象	町内のおおむね3歳未満の未就園児とその保護者	⑨ 母 数	約3,450名 (R5.3末3歳未満 児1,164名)
----------------------------	------------------------	-------------	-----------------------------------

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	他の子育てで親子と交流し、専門スタッフから子育てに関する相談、情報の提供、助言その他の援助を受け、安心して子育てをすることができる。 令和5年度も、引き続きボランティアの協力を得て、継続実施していく。
--------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

事 業 内 容	乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、専門スタッフが相談や悩みに対応する。 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の予防策を継続的に講じながら、利用者の利便性向上を目的に、完全予約制を廃止するとともに、人数制限等を緩和した。
------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円	★記入不要とのこと	★記入不要とのこと	★記入不要とのこと	★記入不要とのこと	★記入不要とのこと	★記入不要とのこと	★記入不要とのこと	★記入不要とのこと	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由	エコセンター、さわやかホール以外での実施状況を見据えながら実施する。
-------	----	-------------	------------------------------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	5	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	5	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	5	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	5	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	5	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	4	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	5	
		合 計					34	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価	B評価	C評価	D評価	E評価	A	
		35～26	25～21	20～16	15～11	10以下		

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	地域の身近なボランティアが加わることにより、行政対住民という関わりが緩和し、子育て親子がより安心して参加しやすい雰囲気づくりができた。	相談に応じる中で、他の子育てボランティアを紹介することもできた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	今後は、地域での見守りの強化という視点からも、民生委員の方々の協力も求めていきたい。	自分たちのようなボランティアを今後も一層積極的に活用して欲しい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業名称	おたのしみ会	所管部署	課名 広陵北かぐやこども園
----	---	--------	--------	------	------------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向	施策番号	展開方向名
3-1	子育て支援の充実		2	子どもの育ちを支援する環境づくりの推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵北かぐやこども園PTA
協働実施手法	2-2 共催

具体的な対象	北かぐやこども園PTA役員等の保護者	⑨対象者の母数	150人
--------	--------------------	---------	------

目的・期待	北かぐやこども園のPTA本部役員さんを中心に、有志の保護者を募り、子ども達が楽しみにしている「おたのしみ会」を盛り上げることを目的とする。
-------	-----------------------------------------------------------------------

事業内容	数か所のコーナー(出店)を担当していただき、自分たちで創意工夫することによって、子ども達の行事参加への意欲を高めていく。
------	--------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円									維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	5	来年度から
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	4	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3	
					評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	4	
合計							25	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	B	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	保育者と保護者のつながりが強化されたり、保育者のみで行うより、子ども達にとって活動に、広がりや深さが生まれた。	こども園の情報を、より多く知ることができ、自分たちの園であるという意識が高まった。
協働することで感じた課題や今後の方向性	働いておられる保護者がほとんどなので、役員に限らず、だれでも参加しやすい活動にしていきたい。保護者のみならず、地域の方も巻き込んだ活動になれば更に良いと思う。保護者に、子ども達にとってより楽しくなるアイデアを募ることによって、参画意識や意欲を高めたい。	子どもの育ちをよりよいものにするために、行政(こども園)とともに、より良い連携の仕方を探していきたい。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業 名称	行政相談委員	所管部 署	課名 住民課
----	---	------------	--------	----------	-----------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	行政相談委員
協働実施手法	1-3 負担金

具 体 的 な 対 象	全ての町民	⑨ 母 数	35,000
----------------------------	-------	-------------	--------

目的・期待  
行政相談委員は、総務大臣が委嘱した民間有識者で、全国に約5,000人(各市(区)町村に1人以上)が配置されている。国民の皆様から、国の行政などに関する困りごとを受け付け、相談者への助言や関係機関に対する改善の申入れなどを行っています。

事業内容  
相談会場等の提供及び啓発活動。  
※相談は年に1回あるかないか。

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		20		20		20		20	維持

今後の方針 (選択) 拡大・縮小・廃止の理由

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	3
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3
						評価・見直し	事業の目標設定をするともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3
		合 計						
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	21	B

来年度から

↑ 自動計算  
左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。  
※協働する相手の評価については、来年度から実施します。

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	啓発活動のため効果があるかどうかは不明。	啓発活動のため効果があるかどうかは不明。
協働することで感じた課題や今後の方向性	相談件数が無いに等しいのは、困りごとが無いためのなにか、周知不足なのかが不明である。	相談件数が無いに等しいのは、困りごとが無いためのなにか、周知不足なのかが不明である。



令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	2	事務事業名称	人権擁護委員	所管部署	課名 住民課
----	---	--------	--------	------	-----------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
5-5	人権尊重、非核平和、男女共同参画、多文化共生の推進		1	人権尊重の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	人権擁護委員
協働実施手法	1-2 補助金

具体的な対象	全ての町民、学校	⑨対象者の母数	35,000
--------	----------	---------	--------

目的・期待	全ての人間の尊厳に基づく人間固有の権利で、人々が生存と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利である「人権」について、自分の権利のみならず他人の人権についても正しく理解し、その権利の行使に伴う責任を自覚して、人権を相互に尊重し合うための人権教育・啓発を推進する。
-------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

事業内容	人権擁護委員による啓発活動及び人権相談など、人権擁護委員との連携協力による啓発活動を継続することで人権意識の高揚を図る。 ※相談は年に1回あるかないか。
------	---------------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		303		304		303		305	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価	参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価		
5	4	3	2	1	目的共有	3	来年度から		
					対等性	4			
					自主・自立	4			
					相互理解	3			
					情報公開・透明性	3			
					評価・見直し	3			
					相互変革	3			
合計						23	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。		
総合評価					A評価 35～26	B評価 25～21		C評価 20～16	D評価 15～11

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	街頭啓発など人権擁護委員と連携し人権啓発を推進した。	町の施設利用など、啓発活動がスムーズに行えた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	相談件数が無いに等しいのは、困りごとが無いためのなのか、周知不足なのかが不明である。	相談件数が無いに等しいのは、困りごとが無いためのなのか、周知不足なのかが不明である。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業名称	国民健康保険運営協議会	所管部署	課名 保険年金課
----	---	--------	-------------	------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策番号	施策名	展開方向番号	展開方向名
4-7	社会保障の適正運用	2	社会保障制度の健全運営

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵町国民健康保険運営協議会
協働実施手法	4 その他

具体的な対象	被保険者を代表する委員 6人、保険医又は保険薬剤師を代表する委員 6人、公益を代表する委員 6人からなる国民健康保険運営協議会	⑨対象者の母数	18人
--------	-----------------------------------------------------------------	---------	-----

目的・期待	国民健康事業の運営に関する事項を審議するため
-------	------------------------

事業内容	事務局から予算、決算の報告、改正内容の説明等 議題として報告、議案として提起 (年2回:例年8月、2月に開催)
------	---------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		240		240		240		240	維持

今後の方針	(選択) 拡大・縮小・廃止の理由
-------	------------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	3
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	2
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	3
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	3
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	2
		合 計						
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下		

来年度から

左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。  
 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	行政からは発言し説明をするが、被保険者を代表する委員、保険医又は保険薬剤師を代表する委員から発声がなく、うまく伝わっているかは不明	国保財政の現状と県統一保険料率へ向けた段階的な被保険者の負担調整について理解が得られた
協働することで感じた課題や今後の方向性	現在、事務局からの報告をする場となっているため、意見を交換することも必要	県統一制度改正にあつては、費用対効果の評価の仕組みも考慮すべきである。マイナ保険証に一本化することについて、住民の不安感を払拭する議論が必要

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	1	事務事業 名称	違反広告物除却活動	所管部 署	課名 環境政策課
----	---	------------	-----------	----------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開 方向	番号	展開方向名
	1-2	環境保全の推進		1	環境保全・美化活動の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	違反広告物追放登録員(婦人会、更生保護女性会、コスモス会)
--------	-------------------------------

協働実施手法	2-2 共催
--------	--------

具 体的 な 対 象	違反広告物追放推進団体として認定しているボランティア3団体として婦人会、更生保護女性会、コスモス会の違反広告物追放登録員	⑨ 対 象 者 の 母 数	34人
------------------------	--------------------------------------------------------------	---------------------------------	-----

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	町内全域の電柱や公共施設に無許可で掲示されている違反広告物を撤去し、地域景観の保全、青少年の健全な育成を図る。
--------------------------------------	---------------------------------------------------------

事 業 内 容	ボランティアが主体となって町内の違反広告物を撤去する。(奇数月は2回、偶数月は1回の割合で活動している(ただし、4月は除く))
------------------	-----------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		5		5		5		5	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1		目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	5
						対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	5
						自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	3
						相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	5
						情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	5
						評価・見直し	事業の目標設定をするとともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3
						相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	3
		合 計						
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	29	A

来年度から

↑ 自動計算

左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。  
※協働する相手の評価については、来年度から実施します。

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	地道な除却活動の結果、違反広告物は減っている。	町の景観をきれいに維持できている。
協働することで感じた課題や今後の方向性	違反広告物は完全には無くならないので、今後も新たな違反広告物の除却に対応していく。	今後も地道に活動を続けていく。

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	2	事務事業名称	広陵町環境保全指導員	所管部署	課名 環境政策課
----	---	--------	------------	------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
	1-2	環境保全の推進		1	環境保全・美化活動の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵町環境保全指導員
協働実施手法	2-2 共催

具 体 的 な 対 象	町長が任命した広陵町環境保全指導員	⑨ 母 数	15人
----------------------------	-------------------	-------------	-----

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	環境破壊のおそれがあるときは町長に報告する。また、地域の良好な環境のため、助言や指導を行い環境の保全を図る。
--------------------------------------	--------------------------------------------------------

事 業 内 容	年1回程度、活動報告等についての会議を開催。また、隔年で研修会を実施。 令和2年度以降はコロナ禍により実施できていない。 また、指導員は、違反広告物除却活動も行っている。
------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		270		270		270		272	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	3	来 年 度 か ら	
					対等性	3		
					自主・自立	3		
					相互理解	3		
					情報公開・透明性	3		
					評価・見直し	3		
					相互変革	3		
					合 計	21	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。	
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下		B

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	令和2年度以降はコロナ禍で事業実施できず。 ※令和5年度事業再開予定	令和2年度以降はコロナ禍で事業実施できず。 ※令和5年度事業再開予定
協働することで感じた課題や今後の方向性	令和2年度以降はコロナ禍で事業実施できず。 ※令和5年度事業再開予定	令和2年度以降はコロナ禍で事業実施できず。 ※令和5年度事業再開予定

令和 4 年度 参画と協働施策実施状況報告書

通番	3	事務事業名称	広陵町空家等対策協議会	所管部署	課名 環境政策課
----	---	--------	-------------	------	-------------

(ア) 総合計画上の位置づけ

施策	番号	施策名	展開方向	番号	展開方向名
	2-2	良好な住環境の保全・形成		2	空き家等の発生抑制・適正管理の推進

(イ) 実施内容・体制

協働する相手	広陵町空家等対策協議会委員
協働実施手法	3-1 審議会、策定委員会等

具 体 的 な 対 象	①地域住民 ②法務、不動産、建築、福祉、文化等に関する識見を有する者 ③その他町長が適当と認める者	⑨ 母 数	14人
----------------------------	---------------------------------------------------------	-------------	-----

目 的 ・ 成 果 ・ 期 待	空家法に規定する空家等対策計画の作成及び変更並びに当該計画に基づく施策の実施、特定空家等の認定及びその措置に関する事について協議し、各種施策を推進する。
--------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------

事 業 内 容	必要に応じ協議会を開催し、特定空家の認定や、町の施策についての意見聴取など。
------------------	----------------------------------------

(ウ) 事業費

事業費(～R4決算額・R5予算額)	単位	R	2	R	3	R	4	R	5	今後の事業費の方向性
事業費	千円		不明		33		46		248	維持

今後の方針	継続	拡大・縮小・廃止の理由
-------	----	-------------

令和 4 年度 事業評価		参画・協働の原則に基づいた評価項目					行政の評価	協働する 相手の評価
5	4	3	2	1	目的共有	協働する相手と目的や意義を共有することができたか。	5	来 年 度 か ら
					対等性	お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか。	3	
					自主・自立	協働する相手との長所をいかし、相手の自主性を尊重することができたか。	5	
					相互理解	お互いの立場や特性を理解した上で、役割を明確にして取り組むことができたか。	5	
					情報公開・透明性	協働する事業の取り組みや成果について、それぞれが分かりやすく情報発信することができたか。	5	
					評価・見直し	事業の目標設定をするともに、評価・検証(PDCAサイクル)を行ったか。	3	
					相互変革	協働事業を通じて「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」といった柔軟に対応する姿勢を持つことができたか。	5	
		合 計					31	左上の評価項目について自己評価し、1～5の点数を付けてください。 ※協働する相手の評価については、来年度から実施します。
総合評価		A評価 35～26	B評価 25～21	C評価 20～16	D評価 15～11	E評価 10以下	A	

↑ 自動計算

	行政の意見	協働する相手の意見
協働によって得られた効果	管理不全空き家について、法務、建築など多方向からの意見を聞くことができた。	行政の執る施策や、空き家の現状について知ることができた。
協働することで感じた課題や今後の方向性	環境部局では、老朽危険空家に特化した施策のみを行っている。	根本策として、危険空家にならないよう利活用についても注力していかなければならない。